

リレーコラム 2
キャリアの積み方
—私の場合

T先生へ

姫路聖マリア病院 小児科部長
河田 知子

小児科医になって10年目、小学校2年生、1年生の年子の子育てはいかがですか？
2人目から8年あいての3人目の予定日がもうすぐですね。「仕事を終えて家に帰ったら、自分の時間をすべてこどもにとられる」という日々がまだまだ続きそうですね。同級生（含む旦那さん）は、いくつかの病院に赴任し経験を積み、大学院へ行って学会発表や学位取得をしているのに、自分は目の前の診療だけで毎日が過ぎて行く、とあせってはいませんか。今はまだあなたは意識していないかもしれませんが、医師は「リーダーシップ」「マネージメント能力」を求められる職種です。これは6年間の医学教育では学ばなかったことです。今の病院は「委員会」が数多くあるので、長く勤めていると委員長のお声がかかります。委員会の方向性を決定し、結果について責任をとるという過程でいつのまにか「リーダーシップ」を身につけることになります。仕事と子育てを両立するために、自分のできる事をし、できない事は頭をさげて人に頼み、時間の管理をしていると、「マネージメント能力」も鍛えられます。医師は、患者さん（小児科だとその親御さん）に喜んでもらい、やりがいを感じる仕事です。それ以外にも組織人として仕事を達成する喜びがある事に、もう少ししたらあなたは気づくでしょう。ただし「続けていたら」の話です。
そうそう、3人目の男の子は上の女の子2人と違って、夜泣きはするし、スーパーでお菓子を買ってと床に寝転ぶし、あなたの時間を際限なく奪うけれど、釣りやスキーなどあなた方夫婦に新しい楽しみを与えてくれるでしょう。こどもたちは誰一人として医学部へは進学しないけれど、自分たちで計画し、両親の銀婚式を祝ってくれるいい子達に育ちますよ。タイムマシンに乗って20年前の私に会うことができるなら、このように伝えましょうか、でも未来を知ってしまったらおもしろくないから、黙っておきましょう。

(2012年12月記 所属はホームページ掲載時)



かわた ともこ

[著者略歴] **河田 知子**

昭和58年 神戸大学医学部卒業

姫路聖マリア病院 小児科部長

親が転勤族で各地を転々

昭和58年 神戸大学医学部卒業

循環器内科の夫と夫の母の3人暮らし

長女次女は社会人、長男は大学1年生

～男女共同参画推進委員会より～

「女性のリーダーシップについて」

当委員会は「日本小児科学会は会員の小児科診療、研究、教育を通じて男女共同参画社会の推進に貢献する」という理念のもとで、活動しています。

その中でも特に、女性医師がそれぞれの職場においてリーダーシップを発揮できるような環境整備と意識啓発を図っており、次期の小児科学会役員改選から理事の選任においても地区ごとの選出の他に全国区で女性1名選出と役員規則が変わり、理事には最低でも1人は女性が選出される仕組みとなりました。また小児科学会学術集会における一般演題並びに各種シンポジウムの女性座長の割合は過去5年間1割にも満たない状態でしたが、2015年の118回学術集会では20%を超え、女性もリーダーシップを発揮できる機会が増えてきました。

